

日本予防理学療法学会 COVID-19 関連エビデンス

海外情報

No.4

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月18日
情報ソースの調査日	2020年4月4日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月3日
日本語タイトル	COVID-19 の感受性と長期的な影響に対する栄養の影響
情報ソース	Brain Behav Immun
情報のカテゴリー	予防、肥満、2型糖尿病、西洋食
発信地域	アメリカ
DOI	https://doi.org/10.1016/j.bbi.2020.04.040
URL	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0889159120305377?via%3Dihub
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満と2型糖尿病は、重度の COVID-19 の2つの顕著な危険因子。 ・飽和脂肪、糖質、精製炭水化物を多く含む食事（西洋食）の消費率が高いとは、COVID-19 のリスクが更に増幅する(米国など先進国でリスク要因が多い原因として考えられている。肥満・2型糖尿病の有病率にも寄与)。 ・また、適応免疫システムにおける T および B リンパ球の機能を阻害し、適応免疫を損なう・回復の長期化をもたらす可能性がある。 ・健康食品へのアクセスが最優先で、COVID-19 に対する感受性と長期的な合併症を軽減し、健康的な食習慣に留意する必要がある(食物繊維、穀物、不飽和脂肪、抗酸化剤を大量に摂取して免疫機能を高める)。COVID-19 からの回復・悪化を予防。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか?	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19 の重度化のリスク面の軽減の必要を知ることができる。 また、予防理学療法として地域健常高齢者への指導や介入にてリスク軽減を図れる可能性がある。